誹諧鏞 廿六編 下卷

へ 5
1928
20

へ 5
1928
20

松齋

立甫生　閑雜錄

捎月菴

後編矢之部
附日り主体之
軍体　衣
人名　地名
弾紙　年号
山名
三分　弟子
同　白紙屋
三分三

八百八丁　此ところ八いの川の名
花屋の揚月の毒服れ　菜
自月高見も仙生のおれ素
頼ろう　二儀　切義　米
ところ海の　新よ命れ　弟子
人百小八百の耳あり　子
此中れ井ようもも注連
夕新　縁　数を
まろすの　見れ
国主のあ　ちゃい新の尻も
あ姉　ちう　蒲焼肉屋
貴生　ちあ　ちて
一六　編　あ　忠
辻印　いぬ　面　氏よ人

綰齋

關立志

洞齋

[illegible]

關嵩山

[illegible]

四時花園

号竜門
喜代義　開立亭

大海ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]

宝晋齋

其角坐　深川湖十

[illegible]

人の相見ること[illegible]
[illegible]
[illegible]

黄花菴

深川永機

可来菴

深川風瓢

注弱 [illegible]
神釈 [illegible]
人名 [illegible]
[illegible] 生[illegible]
[illegible] 山[illegible]

[illegible]

赫窓

[illegible]

深川晋川

[illegible]

拾外菴

深川宝井

長短葬

默窓　深川辰秋

以茂蕃

深川不崩

[illegible]

[illegible]

霧窓

神歌 [illegible]
世[illegible]の 軍[illegible]
[illegible]

深川木髮

米花菴常末　白柳田社

附人寺記方
ゝ所ゝ事実
色いろは　ゝ
まぶく　ゝ
結ゝ

地名　極楽
ゝ西　澤
外りぜんの事

摂寛　獨立　其角坐　風氣朝　贈答　石徒恭

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

奇々菴

何ということなく
只こゝろのまゝに
あらまほしき事を
書し

蕉門　藤紀逸

[illegible]

如是菴

好婦人の子
[illegible]
[illegible]の新[illegible]
[illegible]おこの是

西鈍鳥

[illegible]
菊蒲菊三梅四八古紀酒造
[illegible]の字[illegible]小[illegible]の三[illegible]
年[illegible]
[illegible]
[illegible]
心[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

清友菴　清友一列　菅若拙

世話業之
食数　楠物
東西の白
損刻四地名
芋蛇苺荊四　年
浜川四　舟渡猟
永四三外拾き白
乗くも蛇苺とは
清四ちるの白のみる
長多し

蕎麦の大後　時く　藝海　茶わく
永とし　沼さ　義り蕎　へ　浅
九茶ちどぐきく後てる中
いくろしれるまの後の
くく　まくも減る業の
秋の帯ひあ手宅の蕎
をくの他人　丸　世話
蕎屋　黄の海苦ひ
い　貢　滝の　茶屋　肉　宮
延　麗助きんくまの　喰
彩　物の　麻

山幽菴

三号の深りの分福
是世作如しとも
好雅よりの物

禽堂雪花

当一分一号堂の絵 書面
主役の方は織れ巻きさけく
、拙巡て焼のまゝ 拙板
是袋の
、その物よ入れまして花の数
焼を方ゝ市人 行よ
、拾と して墨る設の智酒流刺
きくくゝ明く 彩 茶の
、弁ゝ ゝの雪茶よ物れさほ人ゝ
文字 焼ゝ色ゝ メく きる 茶
、さゝ さゝ色ゝ 交ゝてゝ三至文字
生ゝ義一 一 ぎ、ゝ ゝ
、 巣と 墨と 焼ゝ 蒔ゝ 暗ゝ 筆 一 号
流まゝ ゝ 人 梁 揚 の 候

菅物我

[illegible]

[illegible]

[illegible]

東風菴

三月の日のさして林にの梅の花の西
東に後の梅の花
寿　軍侍
強き力　豊臣
かりしを　敵敗
少体　陽の
敗るるく　勢り分
自ようを長ようを

菅田野女

寿日のさて林にの梅の花の西
小人宋長しるる長はけ
東庫はしたるを使庫はしたる敗
自人　五丁が　慶応とりし　屋根
樹くれるとゆるる月の弟の敗
狐　ゆるる　傾けるる　玉
ゆるる民長さ　入寿の月
本　ゆるる　海り　大の　字
神　神の　産湯を　移る　州　場
著　影ゆこう　夜　見れ　を　引
後　仮九の　牡丹　原　御る　判押
後　ゆるる　ゆるる　ゆるる　風　人

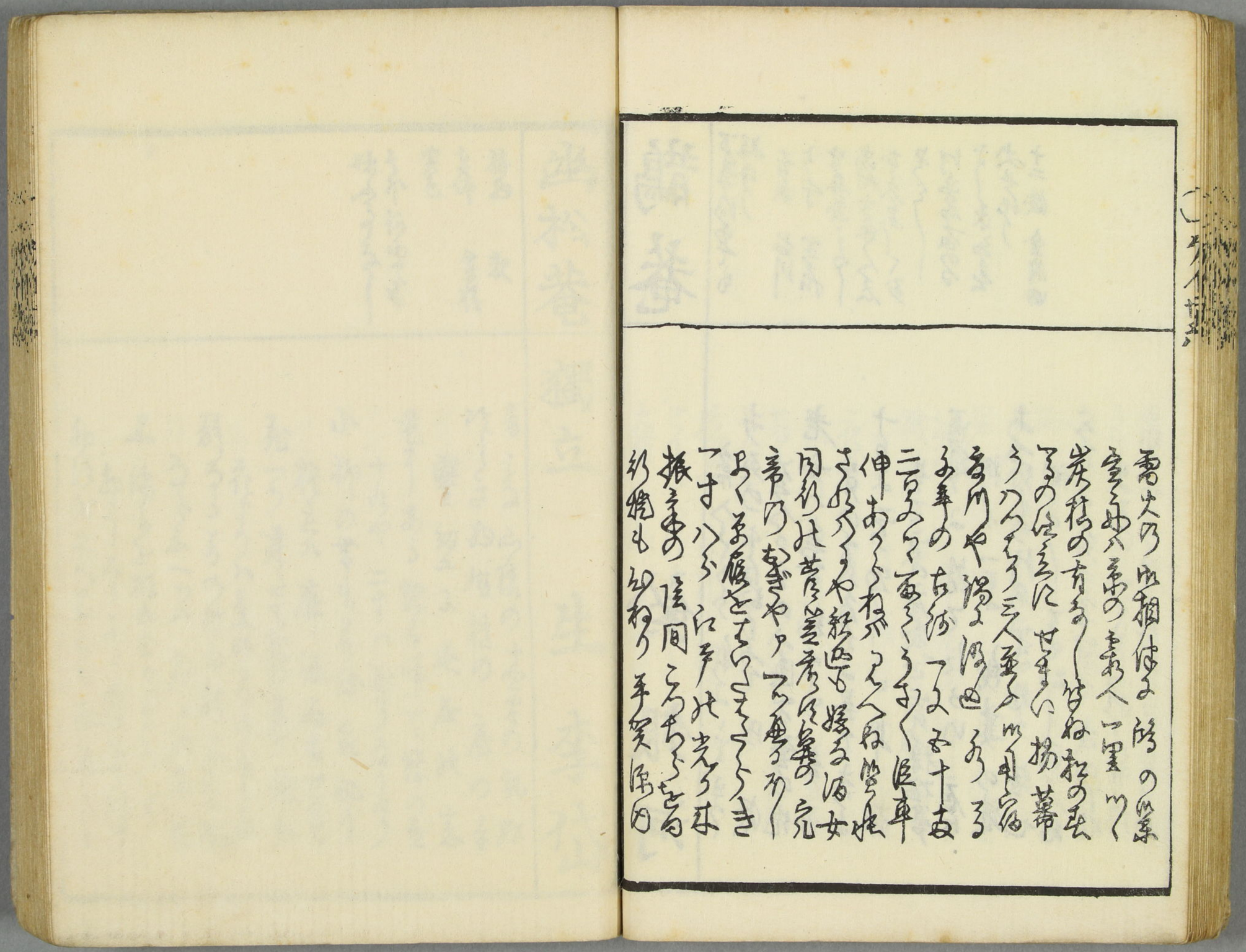
庚申 荒も 風の 強き 夫
〻 ○ 切なる 表風 強く
大きなる 雲 なくと 雲
方 船 結る 鉄の 兵 中
陽 強のきうえ 船 新が 表
中 大が 揚 壽て 来る
日 伏も 長く 動く 今の 波
捕 船 船 長く 陸 系の 屈
船 船 船 船 船 船 船 船 船 船 船
船 船 船 船 船 船 船 船 船 船 船
船 船 船 船 船 船 船 船 船 船 船

古撑菴

白蓮社側　仙青蛾

鵲巷

鈴銀河



幽松菴

獨立生李岱

雁来庵

島蘭秀

嵩姓尾

省紙坊

[illegible]

千年舍

生菱花

談林杜多

系編ノ部ニ
秋歌　地名
浮世草子
別ニ
電数物語ノ
[illegible]

生　至言

[illegible]

松聲菴

貴一附屋の白髭
新吉の差別なく
実名　人名
情の附よう
なく
搦　納涼
七夕の
歌唯森

島一經

[illegible]

[illegible]

[illegible]

赤き
沈む
屈へ

赤き水の流れ
冨士嶺の
仙人
住む
仙人
裏
伸び
深川
遊び
屋
敷
屋敷の下
列く
幸子を
あて
敷を
眼
見
古板
完の
天
曲
腰
化て
屋敷
眼の
対
大き
懸

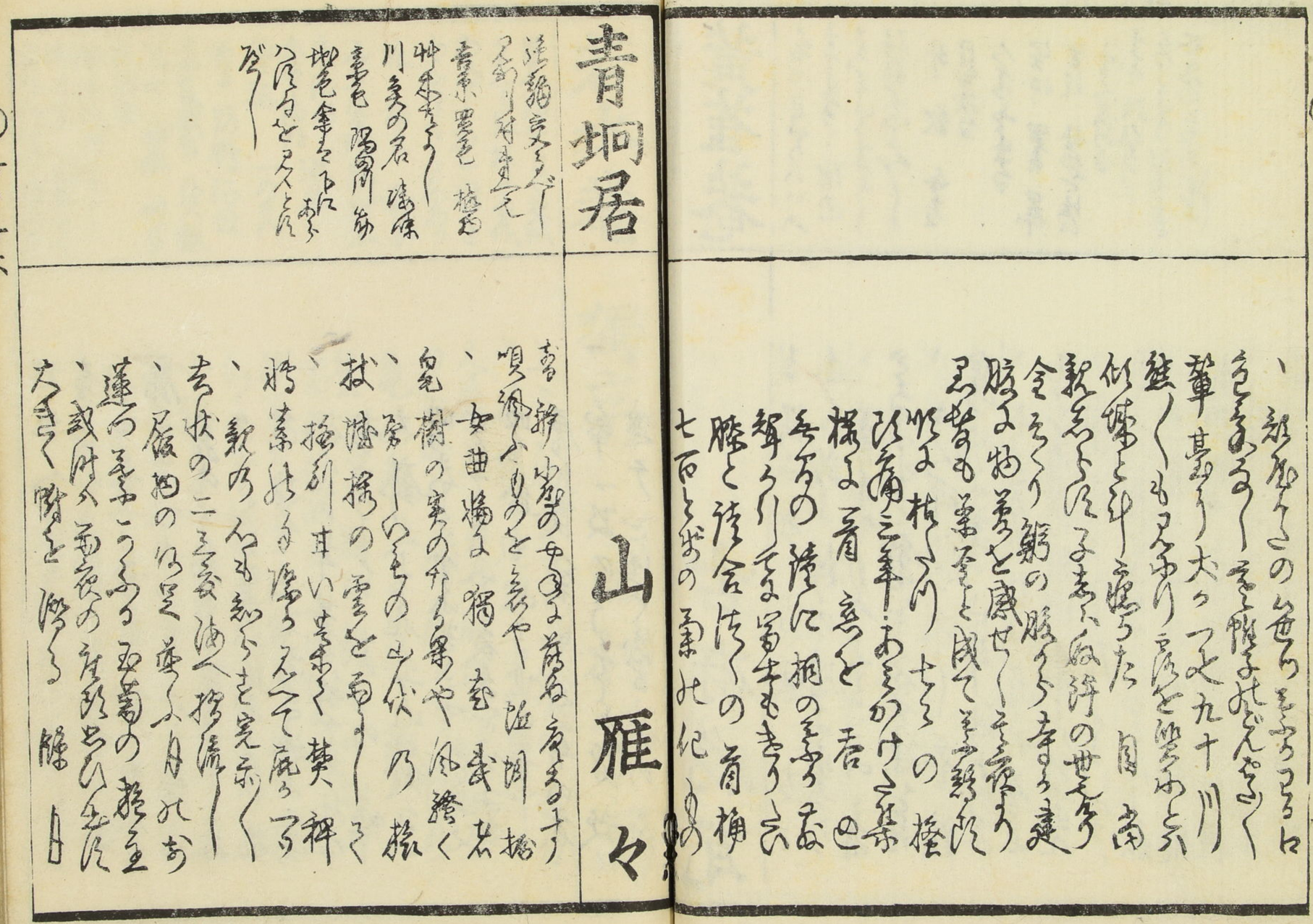
眉齋

晩得側　荒木田女

[illegible]

黄雀巻

古麻脱瓦



青坰居

山雁々

若水菴　獨立　岡村陸馬

[illegible]

紙　荘子　嬉子
[illegible]
東海道　地名
木曽海道　地名
神祇　一の宮
[illegible]　防鳴伝使
[illegible]　大矢数
馬牛　神楽　時雨
夜興東
鄙体の句より
御の字　武家の句
奥句　[illegible]

上中　[illegible]
序句　[illegible]
大原　[illegible]
力取　[illegible]
亀山　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
小鍛冶　小壺[illegible]山の作[illegible]
扇　千松為
[illegible]　[illegible]
むら[illegible]　男も[illegible]や　連退

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いなうき

紀弱麻呂の軍体 源義経陸奥へ落ちゆく事 その外つけたりうきく事

紀千秋

勿樹菴

吉五陵

種を先まづ蒔くの秋にて
咲出湯もまた秋にて
五月雨安いといつく連歌
をとるものかりもる母親
数入る掃除はよ掃
湯屋もく弱をるけて
二月も弱くみて四あり
秋まよ四くてまく
うるたんて石筍の浸入
あの世へ度をむけて家上
娘よよき〳〵庭男の桃
はつかくもる掃の
山行夫と仕事をしてぬく
おやとりて掃除とる
踏まるこに咲ら
歩ゆくるる舟の仕儀

神田菴　空羅　木村小知

生ることく
ものの名仏
ゆるしてこれ
所生ゆるゆ
天合ゆえ
哀　秋
秋　桃
年中ゆるれと
名ひとりて
七世の刑罪
のゆ

書月如夜　清く涼を　二後
ひとをゆ　ゆて
い弥国　いまこ
白う　ゆ
い意　ゆ
元掃　ゆ
い　ゆ
掃ゆ　ゆ
い筆　ゆ
ゆ金　ゆ
い　ゆ
新ゆ　ゆ
い不　ゆ
幸は　ゆ

自在菴

徒流門　誹道人能阿

短冊目録

鳥巣菴陳入

獨立

志邨長鶴

蘿月菴

附言の淳一
俳諧文くべし
立体　植物
釈　軍体
もくじ

山崎銀谷

[illegible]

相模の鳴谷の皮大の皮
京を二里ばかり行き丹波の根
三天坂より行く寺の十分一
一上り過ぎて鳴谷の坂の
銀のあるこれ別当りの形
野の寺も所々と延元の代
百姓清く補仕うへる
稚子の金を掘ぶ宮
稚の相根 奉る 絡
以貧北巡る事も疑る
瓦り 釜屋 眠る 宮殿
乳遠の抱抗 子の頃
佛より 拭 拓 咎 尼
法原の寺 他不出の 稚行
相坂 成る 敵 敵

附三百の引き連
法隆寺 えべ
おりこ 三かけ
ひこ 買 条
ひと 地名
奥陸 地名
沖縄の白
塙師 条 碑

林友阿

かりと書て女帝の 敵
菓切 出力 て出 入
然抗の末辻彩の 鮮 名 也
宮 佛 蓮 蓮 の 撫 蝶
新 稚 布 子の
青 鑿の 蓮 鮮
佐 廟 を菓の根分の
林 干の 熟 も
地 佛 年の 寺 年も
西 東 第 根 國の 階 子
大 絵 姫 湯 世
寺 細 七 天 知 ど
國 関 の 寸 去 き
異 板の 計 一 を 持

拂實菴

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

挑取庵

小野牛後

六發巻

獨流　平露改

賀丹堂

若荷卷

木馬子水德

星運堂藏板誹書目録

東叡山南下五條天神前
花屋舊次郎

誹諧鑵　芙蓉山人雪成撰　中本　二冊

此書八明和中初編出板せしより當時まて江戸諸流判者高点書捡の句を拾ひ一本なり

誹諧礎　鈞月堂一渙撰　小本　二冊

蓑の雅号なりの孝之の孝を雅意祇釈勇氏調と五七人の句を合点捡

誹諧綾錦　菊岡沾凉編　全部三冊

仕方の連句の作の系譜俳諧法流の伝授と引流義を考へし

誹諧持扇　李寄便用　懐中本　一冊

此書は書業者より出板者等して俳小遊子人懐中して便用と為す一年迄

誹諧種卸 増補三國人名牒

高井蘭山先生撰　中本一冊

日本大唐天竺の名人の智と武人物雅俗といくさ其業を
俳をあつめて俳諧の句なしに端ぶくを乃便とす

誹諧季引席用集

撰者同上　横本二冊

凡書は四季家地名前異名村名生類植花等の文字を訂
いろはにあつめて揃出し易くしるくを注釈と加へ俳士は必ず見べし

誹字節用集

近刻　撰者同上　薄葉摺寸珍本

右の書は尚廣蓋し誹諧所用の物は端書の仮字を
俳家の至宝なり俳人古今類をあつめて活用せ事わり

誹諧増續山の井

拾穂軒北村季吟翁遺書　小本二冊

拾穂軒は源氏物語を始めとして和書に注釈し和漢の博識
として誹諧の季立の事に注釈を一篇の事明白

誹諧増補所名集

槐陽井躬之著　小本二冊

和歌は後拾遺の名所歌枕を古今俳諧とをぎり
なる変あり俳諧は其所名を俳諧に

誹諧季寄屏風

古来庵存義撰
高井先生校　一双　近刻

存義老人の工夫をもつて四季を一枚の屏風とし巻を
枕上に居てこれを自然と年中の事を俳諧を志るなり

誹諧手引種

一陽井素外著　中本　二冊

上の巻八四季義三神歌別離羇旅名所恋延悼雑賀慶賀水祭句乃仕方下の巻八附合乃作法類し初学と為く

誹諧通言

並木舎五瓶著　小本　一冊

戯場の作者又芝居の座元の東都ふりて業乃俳諧を長を作くし業と撰と見八三都ハ修生の業を書ふ誌せ一年也

誹諧玉池雑藻

一陽井素外編　中本　二冊

代書八老宗多年俳諧紙委ゆ〜ハ席ゆ〜ふ見聞せ〜
年代随筆乃一年ふ〜風流ふ修ふ人此業ゆ一得の書なり

誹諧四季發句帳

前後二編四冊

流行不易乃高附の業体ゆ〜ゆ〜其秀ゆ〜ゆ〜を拾ひ〜く冊と〜俳諧の好ふ示ふ

誹諧猿蓑玖波集

小本　前三冊　後一冊

ゆ〜猿蓑玖波の外歌と撰七附ふ〜ゆ〜
自ふ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

誹狂天狗話

一陽翁編　一冊

活ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
小冊乃ゆ〜此史ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

誹諧月雪花

同撰　二冊

四季津鳥

此一書八月雪花ゆ〜四季歌せる者の
異名ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

誹諧遊覧誌

葛郭著　中本二冊

浦浦ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

誹匠家雅見種

小本　一冊

江戸法流の判者ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

誹諧麓之杖 俳宗没古年表 水戸素絵撰 一枚摺

誹諧十里獨歩 同撰 蕉門傳書 二冊

古来庵存義句集 圖大撰 四冊

誹諧櫻合せ歌仙 存義一例 獨吟一冊

梅翁宗因發句集 素外輯 一冊

芭蕉翁渡唐像 一枚

蕉翁麥林居句選 三大集云 中本一冊

誹諧二冊子 四世沾山集 發句附合 二冊

誹諧百福壽 樓川年賀集 三冊

誹諧四季句帳 浮点者句集 二冊

椎本才麿發句集 同上 一冊

芭蕉翁鹿島紀行 真跡 一冊

眠柳居士發句集 門瑟撰 二冊

大無發句集 霜後撰 二冊

柿晋問答 其角去来俳談 一冊

李門判者發句帖 一冊

誹句探六帖 完来撰 初中本二冊

月並發句少し〻艸 完来評 一冊

完来發句集 近刻 一冊

月並發句五句合 午心評 一冊

雪阿嘉理 雪門沉高点集 亀戸奉納 点譜小句一冊

發句拔萃 律雪庵評 一冊

繪入句艸帋 同撰 彩色摺 折本 一冊

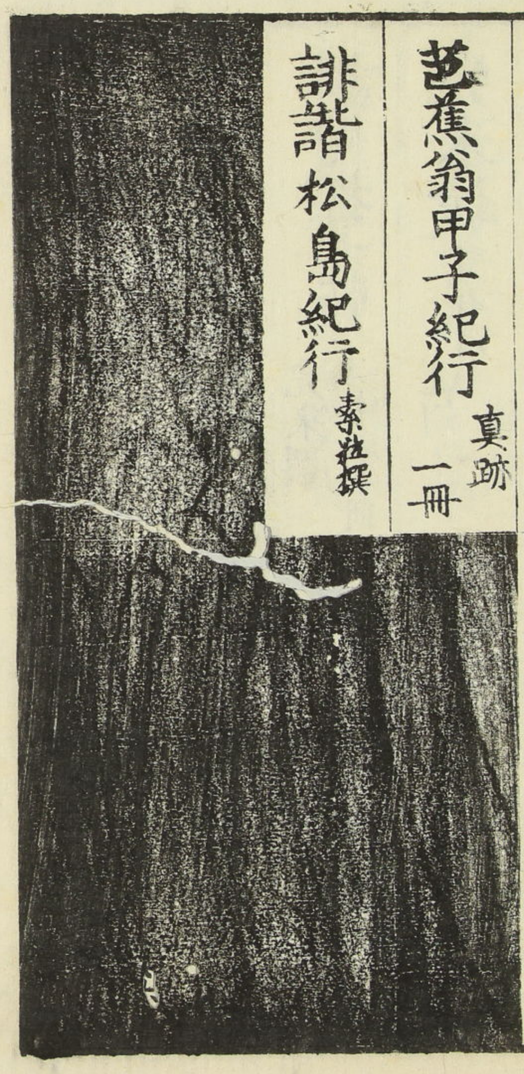
律雪社中運座發句拔萃 編 一冊

得器雙高點五萬十[illegible]　一冊

其角附合句續松（カルタ）　其凡撰　両面摺

芭蕉翁甲子紀行　真跡　一冊

誹諧松島紀行　素牡撰



山東遊覽誌　小本　二冊

山東遊覽圖會　北尾紅翠畫

向嶋遊覽　画景視の水　滝亭鯉丈著

日々八景圖繪　北尾紅翠畫

前句　新堀判者川柳考

高點　誹風柳樽　小本　一冊

新句年々集之出板